



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

兵庫県域メディア連携協議会

意見交換

事前アンケート① 行政機関からの情報提供のあり方について

Q1 過去の水害(平成30年7月豪雨等)を振り返って、災害時に河川管理者からどのような情報提供があれば有効とお考えでしょうか。

- ・河川に関する情報が増えすぎて分かりにくいので、もっと減らして、用語も分かりやすくして、確実に避難に結びつき、命を守る情報に改めてほしい。
- ・現在の水位状況に加え、今後の水位上昇見通しや危険度を分かりやすく示した情報、過去災害との比較による切迫度の提示、堤防や河川施設の状況が把握できる情報が提供されることで、住民への情報発信がより適切に行えると考えます
- ・地域情報チャンネルは、気象警報が発令された時、自動でテレビ画面に表示するシステムを導入しています(データ放送強制起動を利用)。アラートも連動しているので避難勧告/避難所情報/被害情報/国民保護情報が自動で表示されます。24時間体制ではないので対応に限界はありますが、避難勧告/避難所情報/被害情報の詳細をなんらかの形でいただければ放送・SNSを通じより細かい発信に努めたいと思います。
- ・河川の水位、「決壊の危険」など今後に関する情報
- ・水位の上昇に関する予測情報
- ・あらかじめ想定される雨量や被害を改めて知りたい(備えへの呼びかけに活用できる?)
- ・正確な情報。川の水位や決壊し地点、避難が求められている対象地域。
- ・決壊や氾濫までにどれぐらいの時間があるか。
- ・質問とはずれませんが、国交省のHPでこちらから確認できる情報以外に、どのような情報を出すことが可能なのか知りたいです。

Q1. 災害時に行政機関からの情報提供のあり方について

- ✓ 今後の水位上昇見通しや決壊の危険性に関する分かりやすい情報の提示、過去災害との比較による切迫度の提示を行うことで、確実な避難行動につながるのではないかと。

事前アンケート① 行政機関からの情報提供のあり方について

Q2 平時から水害に備えるために河川管理者からどのような情報提供があれば有効とお考えでしょうか。

- ・河川の氾濫によるハザードマップはあるが、近年、雨の降り方が変わっているので、どの程度の頻度で見直しが行われているのか知りたい。
- ・定期的に定点カメラの存在や水害とはどんなものかなどのお知らせなどがあると、取材の参考にしやすい。(すでにSNSなどで発信されているかもしれませんが、何度でもお知らせすることに意味があると思う)
- ・河川の定期的な水位情報
- ・想定浸水区域や過去災害データ、施設状況等を分かりやすく共有し、自治体の防災計画などを周知することで、住民の方の実効性向上につながると思います
- ・現在、猪名川河川事務所・淀川河川事務所より河川カメラ映像の提供を受けています。管轄が違う為難しいことは承知していますが、県が管理する2級河川(武庫川など)の映像利用ができればより有効かと思います。
- ・川がこのような状態になっていると危ないといった予防知識や、地域特性など

Q2 平時から行政機関からの情報提供のあり方について

- ✓ 想定浸水区域や過去災害について、平時から分かりやすく共有すること、河川水位情報、定点カメラの存在などを定期的にお知らせすることが重要ではないか。

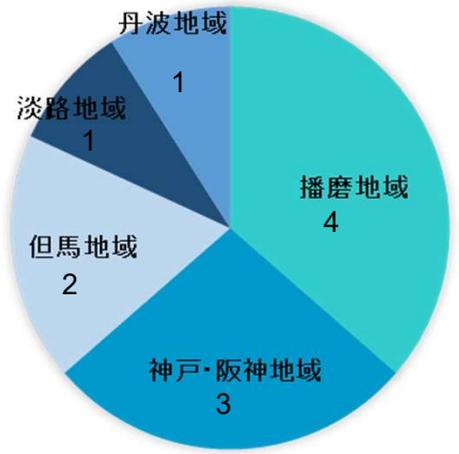
事前アンケート② 現地見学会について

来年度に、現地見学会の開催を検討しています。
 ご希望の開催時期と開催場所について、8社から回答いただきました。

Q3-1
 現地見学会を開催した場合、参加したいと思いますか。

- ①参加したい
 - ②参加したいと思わない
 - ③場所によっては参加したい
- ほぼ、③場所によっては参加したいの回答。

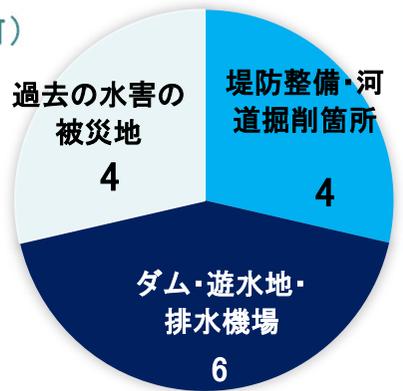
Q3-2
 「③場所によっては参加したい」と回答された方は、兵庫県内のどの地域なら参加可能ですか？



Q3-3
 現地見学会について、ご希望の開催時期

Q3-4
 現地見学会について、ご希望の開催場所の選択(複数回答可)

- ①堤防整備・河道掘削場所
 ※例：加東市滝野地区（加古川中流部緊急治水対策）
- ②ダム・遊水地・排水機場
 ※例：引原ダム（揖保川、中郷遊水地（円山川））
- ③過去の水害の被災地
 ※例：平成16年台風23号（円山川）
- ④その他



Q3 (1)~(4) 現地見学会について

- ✓ 場所によっては参加を希望する機関がほとんど。
- ✓ 開催時期は、5月、6月の出水期前の希望が多い。
- ✓ 開催地域は概ね播磨地域、神戸・阪神地域、また、開催場所は、ダム・遊水地・排水機場の希望が多い。